

令和4年度 自己評価の報告について

こども園津軽野

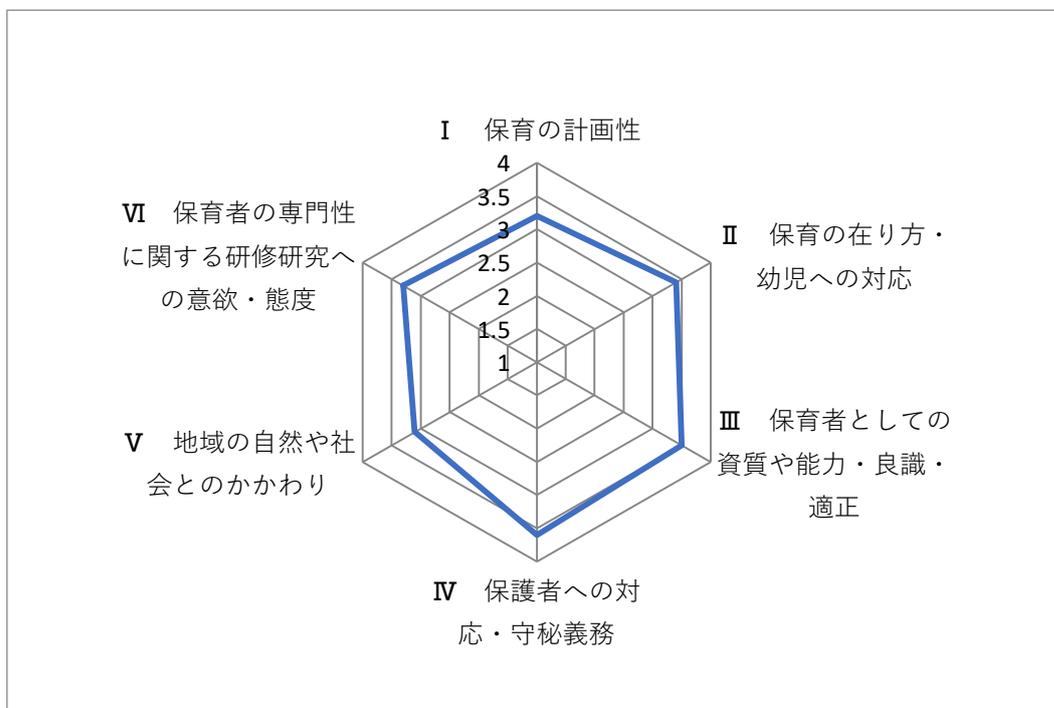
職員の自己評価は、令和5年2月2日から15日の間に実施し、集計結果については下記のとおりとなりました。この結果をもとに、職員間で継続すべき事項や改善すべき事項、令和5年度に取り組むIからVIの方向性について、以下のとおり報告いたします。

I 保育の計画性	3.2	80%
II 保育の在り方・幼児への対応	3.4	85%
III 保育者としての資質や能力・良識・適正	3.5	88%
IV 保護者への対応・守秘義務	3.6	90%
V 地域の自然や社会とのかかわり	3.1	78%
VI 保育者の専門性に関する研修研究への意欲・態度	3.3	83%

(4.0満点中)

(評価方法)

- 1.まったくできていない 2.あまりできていない 3.まあまあできている
4.よくできている



I 保育の計画性

1. 園の教育・保育理念、教育・保育方針の理解
2. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解
3. 全体的な計画（教育・保育課程）の編成と評価
4. 指導計画の作成
5. 環境の構成
6. 保育と計画の評価・反省

3.2	80%
3.1	78%
3.3	83%
3.2	80%
3.1	78%
2.9	73%

(4.0満点中)

総評

・教育・保育の計画性について、職員は、園としての「全体的な計画(教育・保育過程)の編成と評価の部分」を肯定的に捉えている(3.3ポイント)。それに対して自身の保育計画の評価反省については、自己評価が低い(2.9ポイント)。中でも、「お互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、乳幼児の生活と自らの保育につなげている」という項目に対する低評価が多い傾向があった。

・しっかり計画するためには、そのための時間を職員全員に平等に用意することが大切という意見も見られ、職員の作業時間を十分に確保できる体制づくりへの課題も見えた。

今後の取り組み

園全体の業務の優先順位の位置づけ、指導計画や台帳等に取り組む一覧表を作成し、各職員の作業状況が見える化しながら、公平に書類作成の時間を確保していくようにする。また、お互いに保育を見せ合い自らの保育に繋げていくことへの取り組みとして、園内研修の際に、以上児クラスの担任は他の以上児クラスの保育を見る、未満児クラスも同様に取り組み、教育保育の計画作成に役立てていくようにする。

II 保育の在り方・幼児への対応

1. 健康と安全への配慮
2. 乳幼児のみとりと理解
3. 指導とかかわり（心のよりどころとして）
4. 遊び・活動の援助者として
5. 一人ひとりの家庭環境への理解、個別的対応
6. 保育者同士の協力・連携

3.8	95%
3.2	80%
3.6	90%
3.3	83%
3.2	80%
3.2	80%

(4.0満点中)

総評

教育・保育の在り方、乳幼児への対応について、職員は、「健康と安全への配慮」を最も評価しており(3.8ポイント)、次いでありのままの乳幼児の姿を受け入れ、スキンシップを心掛けながら乳幼児の話をよく聞くようにしている、という点を評価している(3.6ポイント)。

・健康と安全に配慮することは保育の基本であり、職員はお互いに連携を取り安全に配慮しながらも、その中で1対1でゆったりとスキンシップを取り、一人ひとりに丁寧にかかわれるような環境づくりが大切であるという意見が多く見られた。

今後の取り組み

一人ひとりの発達状況や姿を捉えるために、客観的に子どもを見たり、一人ひとりに丁寧に関わる時間を確保できるよう、他の職員との協力体制を確立する。また、異年齢児交流を積極的に取り入れ、活動内容によっては縦割り保育を実施しながら、子ども達自身の思いやりの気持ちを育てていく。

III 保育者としての資質や能力・良識・適正

1. 専門家としての能力・良識
2. 組織の一員としての在り方、義務
3. 報連相、職務の遂行
4. まわりを感じ取る感受性、アンテナ

3.5	88%
3.5	88%
3.5	88%
3.3	83%

(4.0満点中)

総評

保育者としての資質や能力・良識・適正について、職員は、「専門家としての能力・良識」、「組織の一員としての在り方、義務」、「報告連絡相談」のいずれも評価している(3.5ポイント)。日頃の小さな悩みや疑問などを、他の職員に話して共有したり、報告・相談をして団結していくことが大切であるという意見や、年齢に応じた発達段階を知るなど、未満児・以上児担任で話し合ったり、保育を見せ合うことが大切であるという意見が多く見られた。

今後の取り組み

保育を見せ合うことで、自分自身の保育の課題や良い所が見え、また、未満児、以上児担任で話し合う場が設けられることで、保育の中で見えてきた悩みや疑問を共有する場にもなり、よりスキルアップできると考えられる。そのため、園内研修等を通して教育保育を見せ合いながら、保育内容について年齢別でどのように保育を展開していくのか、話し合いの場を設けていく。

IV保護者への対応・守秘義務

1. 保護者との情報交換、子どもの共通理解の推進
2. 保護者への協力、支援
3. 守秘義務の遵守
4. 応対時のマナー・良識
5. クレームへの対応の仕方

3.3	83%
3.7	93%
3.9	98%
3.5	88%
3.7	93%

(4.0満点中)

総評

保護者への対応・守秘義務について、職員は、「守秘義務の遵守」を最も高く評価している(3.9ポイント)。次いで「保護者への協力や支援」(3.7ポイント)や「クレームへの対応の仕方」(3.7ポイント)に努めている。コロナ禍で保護者との交流機会を設けることが難しい中で、日々の送迎時や連絡帳を通じたコミュニケーションを大切にし、信頼関係を深めていくことが大切であるという意見が多く見られた。また保護者と、子どもの成長を喜ぶ気持ちを共感し合うことや、保護者自身の気持ちや悩みに寄り添えるような対応をしていきたいという意見も多く見られた。

今後の取り組み

日頃から保護者の方に、挨拶や子どもの園生活の様子を伝え、情報交換しながら子どもの育ちを一緒に支えていけるよう関係性を築いていく。また、新任者については、先輩職員や主幹保育教諭に積極的に関わってもらいながら、保護者への対応の仕方について実際に見て学ぶ機会を作っていく。

V地域の自然や社会とのかかわり

1. 地域の自然・人々とのかかわり
2. 実習生、保育体験受入時の対応
3. 小学校との連携、卒園児の情報収集
4. 地域の特徴を生かした保育の展開

3.1	78%
3.0	75%
3.3	83%
2.6	65%

(4.0満点中)

総評

地域の自然や社会とのかかわりについて、職員は、「小学校との連携や卒園児の情報収集」を評価しており(3.3ポイント)、「地域の自然・人々とのかかわり」はまあまあできていると判断し(3.1ポイント)ている。当園の特徴である一年を通したりんごの栽培は子どもたちにとってとても良い体験になっているなど、自然とのかかわりについて肯定的な意見が見られた。一方で、「地域の特徴を生かした保育の展開」については、最も低い評価となっている(2.6ポイント)ことから、コロナ禍にあって地域の特性を如何に捉えて、地域社会とどのように関わって行ったら良いのかが課題となっている。

今後の取り組み

りんご園での自然体験活動については保護者からも肯定的な意見を多く頂いており、活動を増やしながらか積極的に取り組んでいく。また、老人福祉施設などとの交流は、オンライン通話等、感染状況に左右されないような形で、お遊戯や歌を披露しながら交流を図る取り組みを進めていく。

VI保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

1. 研修・研究への意欲・態度
2. 遊具・教材に関する専門性の向上
3. 園内の環境に関する専門性の向上
4. 今日的課題に関する専門性の向上
5. 自らを高めるための学習

3.1	78%
3.3	83%
3.1	78%
3.5	88%
3.2	80%

(4.0満点中)

総評

- ・保育者の専門性に関する研修・研究への意欲について、職員は、「今日的課題に関する専門性の向上」を評価しており(3.5ポイント)、アレルギー・支援が必要な子どもへの対応・安全管理など、現代の子どもを取り巻くさまざまな状況について意欲的に学んでいる職員が多い。
- ・「研修・研究への意欲や態度」はまあまあできていると判断している(3.1ポイント)。研修・研究への意欲向上は、教育・保育の資質向上へ直結することから、園内外研修を深めて行くと同時に、こども園津軽野の特色を生かした研究の方向性を見出すことが課題となっている。
- ・内部研修については、研修で取り組んだことについてもっと話し合う必要があるという意見や、外部研修についても、園にとってより重要なテーマのものがあれば、研修を受けた職員から他の職員へ共有できると良い、などの意見があり、各々が研修で学んだことを職員全体に共有し、園全体としての資質向上を図るための仕組みづくりが必要である。

今後の取り組み

外部研修に参加した際は、書面での簡単な報告に終わるのではなく、園にとって重要なポイントを日々のミーティングや職員会議等を通して、しっかりと職員に共有していくようにする。また、内部研修についても研修後には、研修で得た学びを職員間で共有する機会を設けるようにする。